

グローバル金融システム委員会報告書

「国際的な銀行活動の長期的な論点」

要旨（日本銀行仮訳）

国際的な銀行活動は、過去 30 年間に亘って、飛躍的に拡大してきた。その様式と地理的な範囲は、国際的な銀行が世界経済において果たす 2 つの重要な役割を反映している。

第一に、国際的な銀行活動は、金融のグローバル化と統合の進展過程において、重要な構成要素となってきた。過去の歴史において、国際的な銀行活動は、国際貿易と拡大の歩調を揃えつつ、国際的な企業のビジネス活動にとって重要な機能を果たしてきた。加えて、新興国市場において、外銀の現地業務展開は、現地の金融システムを発展させ、顧客との密接かつ継続的な関係を通じて情報ギャップを埋めてきた。

金融サービスに対する多国籍企業の需要や新興国市場の急速な成長を踏まえると、国際的な銀行活動とその経済発展への貢献は、将来も拡大していくだろう。貿易や国際的な生産活動が新興国経済にシフトしていくことは、金融統合を加速させるかも知れない。そうすると、外銀の新興国市場への参入増加や現地の地場銀行の国際化が進む可能性がある。このように、新興国市場の銀行は、将来的に金融セクターの国境を越えた再編において、今以上に重要な役割を担うだろう。

第二に、世界経済における国際的な銀行活動の役割は、国際的な金融市場の役割とも関連している。両者は、相互補完的な機能を果たしており、頑健な市場インフラの存在と共に、金融システムがその機能を健全に発揮するうえで欠かせない。深化した国際資本市場は、大企業にとって、銀行貸出が収縮する際に、資金調達の困難を緩和させるものである。他方、銀行は、情報の非対称性の問題によって、市場での資金調達が限られている家計や中小企業に対し、外部資金供与の主要な源泉となっている。

国際的に活動する銀行が、長期間に亘って世界経済の潜在成長力の向上に貢献してきたことに鑑みると、昨今の金融危機を踏まえて彼らのビジネスモデルを分析することが重要である。今次危機は、国際的な銀行の多くについて、オ

ペレーションやリスク管理方法の欠陥や規制面での（現実との）ギャップの存在を浮き彫りにした。そうした欠陥が、国際的に活動する銀行を通じて、世界金融システム全体へショックの伝播を加速させたと言える。

国際的に活動する銀行の急速な成長が、そのビジネスモデルに脆弱性を生み出している兆しが幾つかある。少なくとも部門全体でみると、国際的な銀行の大規模なバランスシートは、効率的とは考え難い。これまでの国際的な銀行業務の拡大は、リスクの過小評価によって促されたものであり、その際の銀行行動のインセンティブは歪んでいた可能性がある。2000年代初のクロスボーダー貸出の急成長は、国際貿易の成長ペースを上回っており、国際的な銀行活動と実体経済活動との関係が変化しつつあるのかも知れない。今後更なる調査が必要である。

以上に加えて、今次危機は、銀行の国際的な資金調達や流動性管理について、入念な分析が必要であることを示すものであった。外銀の受け入れ国が、他国で生じた資金調達リスクに晒されていることを認識した結果、国際的な銀行活動モデルにおいて、非集中型の資金調達が求める声が聞かれている。資金調達の非集中型モデル—銀行の資金調達・管理、監督の大部分が同一の所在地で行われている—は、国境を超えたマイナスのショックの波及を抑制しうる。しかし、こうしたモデルは、銀行の資金調達において、現地の経済状況や金融環境に対する依存度を高めるものであり、国境を越えた効率的な資金の移動を阻害し得るものである。

将来の監督上の枠組みは、銀行の世界的な経済厚生への貢献が妨げられないようにしつつも、彼らのリスク管理を強化するよう誘導する必要がある。こうした枠組みの重要な目的は、国際的な銀行の競争を促すことで経済成長を高めるような、レベル・プレイング・フィールド（公平な競争条件）を確保することである。同時に、競争圧力が国内外において過剰なリスクの蓄積を発生させないよう、資本や流動性のバッファを増強し、安定した資金調達源を確保するインセンティブを向上させることを通じて、銀行のバランスシートの頑健性を高めるべきである。こうした目的を達するためには、監督規制の枠組みは、クロスボーダーで規制の裁定が生じないように、また世界金融システムにおいて同じ機能を果たす機関を同じに扱うよう、国際的な協調に依拠する必要があるだろう。